北海道総合福祉研究センターニュース　No. 46
2025. 4. 1

巻 頭 言

学校の新年度のスタートが４月になった理由

理事長　五十嵐教行

私たちにとって何も違和感のない４月始まりの「年度」。そもそも「年度」が始まったのはいつからか？それは明治政府の会計年度が制度化された明治２年のことで、当初は10月始まりだった。その後１月始まりや７月始まりを経て、明治19年から４月始まりになった。４月始まりが新しい会計年度になった理由として、以下の説が有力である。

江戸時代の年貢制度が基本となったというものだ。江戸時代では幕府(領主)に年貢米を納めていたが、これが租税の基礎となる。米による現物納付を明治政府が現金納付へと変えたので、農家は米を売ったお金で納税することになった。政府は徴収した税金を元に１年間の国家予算の編成をするが、米の収穫は秋だ。税金の徴収が済んで予算編成を手がけるとなると、スケジュール的に４月始まりが妥当となったというわけである。

さて、学校における新年度のスタートが４月になった理由は次の通りである。政府の会計年度が４月始まりになると、政府から補助金を受けている学校も会計年度を４月始まりに合わせることにしたのだ。実に機械的で単純明快な理由だ。しかし、ここにもう一つの理由がある。筆者はこの理由こそが真の理由ではないかと感じるのだ。

実は４月始まりの会計年度が設定された時に「徴兵令」も改正されて、徴兵対象者の届け出期日が９月１日から４月１日に変更された。それに合わせて陸軍士官学校の入学時期が４月となった。江戸時代からあった寺子屋や藩校、明治初期の学校では入学時期等についての決まりはなかったが、明治に入って西洋式の教育制度が導入されると、一斉入学と進級が採用されるようになった。当時はドイツやイギリスの教育制度を参考にしたため、新学期は９月始まりだった。

話しを戻す。陸軍士官学校は旧制高等学校に相当するが、ある年の合格者288名のうちなんと100名がそれぞれの中学校で首席の成績者であったというから、合格者は旧制中学校での成績が上位者で占められていたといえる。陸軍士官学校の入学が４月になったことで、９月始まりだった一般の学校は優秀な学生が陸軍士官学校に流れてしまうと危惧し、それゆえ多くの学校はそれらの学生を集めるべく、４月始まりに変えていったのである。元々当時の旧制中学校への進学率は１～２割程度であったから、進学した各旧制中学校で学ぶその中でも優秀な成績を収めているかつての神童たちは、陸軍士官学校に行くかそれとも東京帝国大学に行くか、どちらにすべきかかと迷ったそうだ。

４月、桜の花びらが舞う中で入学式を迎えたという人がいる。すでに桜なんか散っていたという人もいる。どさんこである筆者は雪解けで道がグチャグチャの中を登校し、木造校舎の小学校の体育館で入学式が執り行われたことを思い出す。体育館はとにかく寒かった。１学年２クラスの小学校だったが、筆者は「１年月組」で、母親よりも年上の女性が担任だった。教室には２人用の木製の机といすで、黒板にはチョークで書かれた大きな桜の木と新幹線の絵が描かれていた。隣のクラスは「１年星組」で、筆者は自分の教室を黒板のその絵で認識して、翌日間違わずに自分の教室に入ることができた。大学生になって友人たちに「１年月組」だと話しをしたら、全員から「宝塚か！」と驚かれて、その反応に筆者は驚いた。そして気がついた。自分はなんてステキな小学校で学んだのかと。それ以来、筆者にとって「月組」に在籍していたことは、かけがえのない自慢の一つになった。

「ある日の講義録・・・」　五十嵐が行った講義の紹介⑥

社会現象の実態と解明～ひきこもり　　『社会学』の講義から

①ひきこもりの定義～『社会的ひきこもり』(PHP 新書1998)

社会的引きこもりとは、６カ月以上、自宅にひきこもって社会参加をしない状態が持続すること。不登校からひきこもりになるケースが多かったことから年齢の定義は以前にあった（29歳後半）が、30代や退職後になるケースも増えてきたことからなくなった。

「社会参加をしない」とは、「家族以外の人間関係がない」「社会に参加する経路がない」ということ。単に外出していないからひきこもりとなるわけではない。外出しているひきこもりの人もいる。家庭以外に居場所がなくて、家族以外の人と親密な人間関係がないことがポイントである。

ちなみに「ニート」とは、経済学用語で教育や雇用などの意味での社会参加をしていない若者を指し、34歳までという年齢の定義がある。「友人と遊びに行く」といった社会参加をしている人がいるので、ひきこもりとは区別される。

②ひきこもりの症状

ひきこもり状態が長期化すると、周囲からの批判や自責の念によって本人に大きな精神的な負荷がかかる。そうするとさまざまな精神症状が生じるようになる。他者によくない印象を与えるのではないかと強い不安を感じ、対人恐怖(しゅうけいきょうふ)が認められる。自己臭（自分の体から臭いが出ていて人から避けられると感じる）、醜形恐怖（自分の顔や体が醜いので人から避けられると感じる）、被害関係妄想（他者に悪く思われているに違いないという感じる）や被注察感（周囲に見られていると感じる）などの症状のほか、強迫観念や強迫行為の症状なども現れる。その他、抑うつ症状や不眠、自殺念慮(ねんりょ)、摂食障害、心身症状、心気症状などが起きることがある。また、家庭内暴力も多く見られる。

③ひきこもりは「状態」

ひきこもりは病気ではなく、単なる「状態 condition」であると考える。

④ひきこもりへの対応

ひきこもり対応の基本は、「ひきこもった原因を探すこと」ではない。「何が抜け出すことを阻害しているか」を理解し、阻害要因を一つひとつ取り除いていくこと。大きな阻害要因の一つが、家族の誤った対応であることが少なくない。①家族相談、②個人療法、③集団適応支援へと段階的な支援プロセスがある。家族相談で重要なことは、本人がもう一度他者と触れ合うことができるように家族が協力することである。

⑤ひきこもりが「hikikomori」として掲載

アジアやアメリカ、ヨーロッパなどでの事例報告が増えており、当人だけでなく家族支援を重視する日本式の対応が注目されている。2010年、イギリスの辞書『Oxford Dictionary of English』において、「hikikomori」という単語が掲載された。

⑥ひきこもりの実態

推計146万人(内閣府による15歳から64歳までのアンケート調査、2022年11月実施)。

40歳から64歳までで区切ると、女性が52.3%となり半数を上回る。

「災害時に現地調査してきた報告として－写真④」

＊五十嵐理事長は、かつて病院にてMSW（医療ソーシャルワーカー）として勤務しており、外来　通院する車椅子や片麻痺の患者さんなどの在宅支援の一環として、地震等の災害時にお　ける避難方法について患者さんや家族の人とたちと話し合っていた。当センターの理事長に　就任してからは、災害が起こったら現地に行き、特に避難所を中心に実態調査をして、避難　所における様々な課題について研究をしている。多くの人に災害時にどういうことが自分の身　に降りかかるのか考えていただけたらという思いで、災害の現場で撮ってきた写真を紹介して　いきたい。

■「東日本大震災」･･･2011年（平成23年）3月11日14時46分に発生した東北地方太平洋沖　地震による災害およびこれに伴う福島第一原子力発電所事故に拠る災害である。大規　模な地震災害と大津波・火災などにより、東北地方を中心に12都道府県で2万2318名の　死者・行方不明者が発生。

■発生から約４週間後の同年４月22日に現地にて調査。

写真１

写真２

写真３

写真４

写真１／大きな漁船が流されて、港のすぐ脇を走る国道を塞ぐように横たわっていた。奥にガソリンスタンドがある。八戸港で撮影。

写真２／個人住宅の前に漁船が流されてきた。この家は港から遠い場所に建っていた。大船渡市街で撮影。

写真３／市街中心部にある用水路に落ちた２台の道路整備の重機。奥の重機はひっくり返っている。大船渡市街で撮影。

写真４／個人住宅の階段部分に流されてきた大木が刺さっていた。大船渡市街で撮影。

「五十嵐理事長主催の勉強会」の案内

五十嵐理事長が主催している勉強会について、お知らせします。

①傾聴に関する勉強会（札幌会場と深川会場）

・一般市民向けで、平日の日中に行っている勉強会です。「傾聴」を中心によりよいコミュニケーションの取り方について学んでいます。決まったテキストはなく、私たちの日常の会話に役立てられそうな内容の資料を見つけてきて、それをその都度用意しています。

・札幌会場においては、オンラインでも受講できます。

②福祉現場で役立つ知識の勉強会

・主に福祉現場で活動している人を対象に平日の夜に行っている勉強会で、オンラインで行っています。「援助技術論」「組織におけるよりよいコミュニケーション」「援助者のための演習」「心理学の基礎」の４つのテーマがあり、それぞれ別日程で行っています。

＊どちらの勉強会も、月に１回（90分間）の開催です。興味のある方はご連絡をくださいませ。詳しい内容をお知らせします。

【北海道総合福祉研究センター会員登録をお願いいたします】

当センターは、特定非営利活動法人として活動しており、社会的活動の内容に賛同してくださる方からの会費収入と事業収入により運営いたしております。そこで、当センターの活動主旨にご賛同いただける皆様に、正会員(個人)および賛助会員(企業･団体)のご登録をお願いいたします。

会員の皆様には、「北海道総合福祉研究センターニュース」や「ちょっと不思議」のハガキ、当センター主催の各種研修･講座等のご案内をお送りいたします。理事長の五十嵐は、「傾聴」についての研究のほか実践活動もしております。自分の中でからまってしまった思いなど、誰かに話をしたらラクになるという体験を多くの人は持っています。ところが、いつの間にか、話のできる相手がいなくなっていることに気づき、孤独感を感じる時もあります。そういう時、どうぞ理事長の五十嵐の傾聴を利用してみてください。どういう話でも、しっかり聴きます。一度お電話してみてください。十分にお応えできます。

この機会に是非ご入会のご検討をしてくださいますよう、お願いいたします。ご入会を検討される方には、素早く会員登録用紙を郵送いたしますので、ご連絡くださいませ。

（１）正会員　(個人)
　年会費　　４,０００円
（２）賛助会員（企業･団体）　年会費　１０,０００円(１口)
　※ 年会費のお支払いは、次のいずれかにお振り込みください。
　　北海道銀行　白石支店　普通口座　０８０３４７５
　　北洋銀行　　北郷支店　普通口座　０６６５７４１
　　郵便振替　　口座番号　０２７７０－１－６０４９２

【編集後記】

この時期に本州への出張があると、桜を目にすることがある。北海道ではまだ咲いていないので、一足先に春を感じることができる。北海道では４月末あたりから桜が咲き始めるので、出張があった年は春を２回楽しめる。その時はかなり得した気分になり、うれしくなる。今年も出張で見たので、２回楽しめるハズだ。なんと贅沢なことだろう（五）。

発行日　２０２５年4月1日
発行者　五十嵐教行
発　行　特定非営利活動法人北海道総合福祉研究センター
〒003-0028　札幌市白石区平和通2丁目南6－23－210
電　話　090-8638-7264
ＦＡＸ　011-595-7400
E- Mail　hsfkc@minos.ocn.ne.jp
ホームページ　http://www.hsfkc.org